

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1)細胞シート工学を応用した口腔組織の再生</p> <p>歯科口腔外科臨床において歯周病や腫瘍切除による骨あるいは粘膜の欠損を生ずる症例は少なくない。これらの組織欠損には新鮮自家組織移植が広く行われている。しかし、移植にあたって組織採取部の更なる外科的侵襲と同部の組織欠損などが問題になる。先端生命医科学研究所との共同研究により、細胞シート工学を応用した培養骨膜による硬組織など口腔組織の新しい再生医療の可能性を研究する。口腔粘膜シート、歯根膜シートの臨床応用に向けて大型動物実験を行う。また、歯髄を用いた再生医療、唾液腺の再生の研究も行っている。</p>	<p>安藤教授 岩田特任講師</p>	<p>1</p>
<p>(2)口腔扁平上皮癌におけるガンマ・デルタ型T細胞の抗腫瘍活性</p> <p>ガンマ・デルタ型T細胞 ($\gamma\delta$型T細胞) は、自然免疫系と獲得免疫の両方の性質を融資、主として感染に対する免疫として働くとして考えられる。In Vitro では多種の癌細胞株に抗腫瘍性を示している。腎細胞癌症例において自己活性型 $\gamma\delta$ 型T細胞を用いて養子免疫療法を行ったところ、有効な治療法と成りうる事が報告されている。本研究では口腔扁平上皮癌における $\gamma\delta$ 型T細胞の発現と抗腫瘍性の検討を行う。</p>	<p>岡本准教授 深田講師</p>	<p>1</p>
<p>(3)口腔粘膜疾患、特に癌化学療法時の口内炎の原因の究明と予防</p> <p>癌化学療法中に口内炎を生ずることが多く、治療が遂行されないこともある。われわれは口腔粘膜の粘膜免疫に関与する細胞、唾液成分、口腔細菌に注目している。口内炎の組織を採取するのは困難であるので唾液中の sIgA の測定や抗菌性の唾液タンパクであるラクトフェリン、デフェンシン、ヒスタチン、カルプロテクチンの測定を行う。口腔ケアを行なうことにより癌化学療法時の粘膜炎が軽減されることよりカンジダをはじめとして口腔細菌叢の変化についても検討する。口腔ケア介入による予防効果について臨床研究も行っている。</p>	<p>安藤教授 山崎非常勤講師</p>	<p>1</p>
<p>(4)顎関節症発症機序・病態についての免疫学的研究</p> <p>顎関節症はその発症機序や病態が複雑かつ多様性を示している。そこで顎関節症の特に変形性関節症発症機序の解明を目的として、現在樹立しているコラーゲン誘導関節炎マウスを実験モデルとして顎関節部の病理組織像と自己抗原特異的CD4陽性T細胞の調節性について検討を行う。また分子病態を解明する目的で顎関節症患者の滑液のサイトカイン産生、活性化T細胞の免疫学的解析を行い、関節疾患特異的マーカーについても検討する。</p>	<p>岡本准教授 深田講師</p>	<p>1</p>
<p>(5)口腔インプラントの基礎的・臨床的研究</p> <p>歯の喪失に伴う口腔機能の低下を回復するために、インプラントが臨床に応用されている。上顎洞の拡大により骨量が少なく埋入が困難とされていた症例に対しても、上顎洞挙上術を施行したインプラント埋入術が行われているが、本来骨のない副鼻腔にインプラントを埋入した場合の周囲組織の反応についていまだ不明の点が多い。そこでイヌを用いてイヌの副鼻腔にインプラント埋入しインプラント周囲の病理組織学的検討および力学的特性を検討する。イヌの下顎骨にインプラント埋入術を施行し、同様な特性を検討し、新しいインプラント材料並びにデザインを開発研究する。</p>	<p>岡本准教授 藤井非常勤講師</p>	<p>1</p>

* : 医師免許取得者 対象